

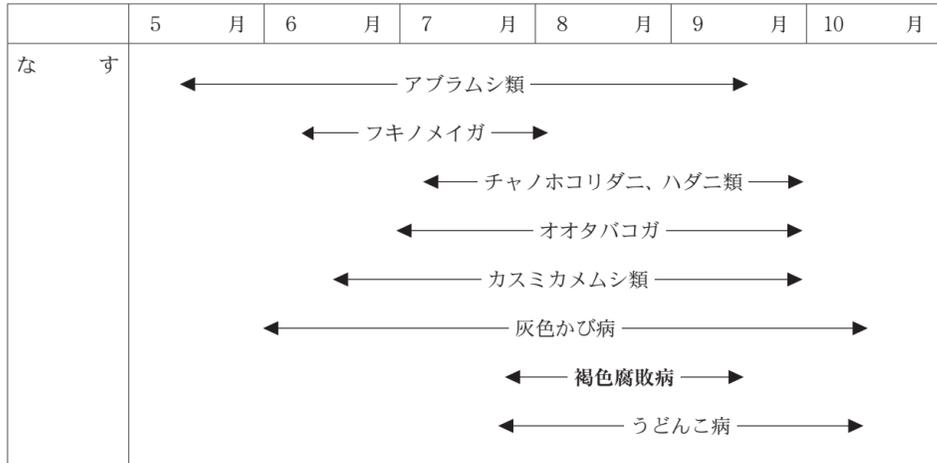
令和6年用なす病害虫防除基準

発行：J A さがえ西村山
さがえ西村山野菜振興協議会

※殺虫剤を散布する場合は、訪花昆虫に対する薬剤ごとの安全使用基準を徹底する。

防除時期	対象病害虫名	RAC	防 除 方 法	注 意 事 項
1 カ月前 植	青 枯 病 半 身 萎 病 ち ょう 病	8F	本畑の土壌消毒 バスアミド微粒剤 [®] 10a 当たり30kg〔は種又は定植21日前まで/1回〕を均一に散布して土壌混和する。	1. 連作は避ける。 2. 排水対策を徹底する。
定	ネキリムシ類	1B	カルホス粉剤 10a 当たり 6kg〔は種時又は植付時/2回以内〕を土壌表面散布土壌混和する。	1. 定植前から除草対策の徹底をはかる。
植	アブラムシ類	4A	ベストガード粒剤 株当たり 2g〔定植時/1回〕植穴処理土壌混和	1. 茎葉・根に薬剤が直接ふれないように注意する。 2. シルバーストライプマルチ（ムシコン）を使用すると有翅アブラムシの飛来を抑制することができる。 3. ハモグリバエ類の発生が多いほ場では、スタークル粒剤を株当たり 2g〔定植時/1回〕植穴土壌混和する。
時		4A	アドマイヤー1粒剤 株当たり 2g〔定植時/1回〕植穴又は株元土壌混和	
6 5 月 中 旬 後	(コウモリガ)			1. ほ場の除草を徹底する。
	半身萎ちよう病	1	ベンレート水和剤 500倍 (20g/10ℓ)〔定植後～収穫14日前まで/3回以内〕を株当たり200～300ml株元に土壌かん注する。	
6 月	疫 病	M1	発生初期を重点にサンボルドー 500倍 (20g/10ℓ)〔-/-〕を10a 当たり150～300ℓを2～3回連続散布する。	1. 発生の多いところでは高畦栽培する。 2. 排水対策をはかる。 3. ホライズンドライブフロアブル、アミスター20フロアブルは同一成分とみなし耐性菌出現防止のため総使用回数は2回以内とする。
	褐色腐敗病	21 27,11 U17 40	ランマンフロアブル 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/4回以内〕 ホライズンドライブフロアブル 2,500倍 (4g/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕 ピシロックフロアブル 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕 レーバフロアブル 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕	1. whicheverかを10a 当たり150～300ℓ 散布する。
	灰色かび病	7 12 M7,19 11	パレード20フロアブル 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕 セイビアーフフロアブル20 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕 ダイアメリットDF 1,500倍 (6.6g/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕 ファンタジスタ顆粒水和剤 2,000倍 (5g/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕	
	ハダニ類 (チャノホコリダニ)	20B 6 25A 20D	カネマイトフロアブル 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔前日まで/1回〕 コロマイト乳剤 1,500倍 (6.6ml/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕 スターマイトフロアブル 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/1回〕 マイトコーネフロアブル 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔前日まで/1回〕	1. 干ばつのときは、特に発生が多くなるので注意する。 2. コロマイト乳剤は単用で使用し、展着剤は加用しない（水なすに使用しない）。 3. コロマイト乳剤、カネマイトフロアブル、スターマイトフロアブルはチャノホコリダニにも登録がある。 4. ハダニ類の多いほ場には、バロックフロアブル2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/1回〕ダニトロンフロアブル2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/1回〕ダニサラバフロアブル1,000倍 (10ml/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕を使用してもよい。
アブラムシ類	4A 3A 9B 29 9B	モスピラン顆粒水溶剤 [®] 4,000倍 (2.5g/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕 アーデント水和剤 1,000倍 (10g/10ℓ)〔前日まで/4回以内〕 チェス顆粒水和剤 5,000倍 (2g/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕 ウララDF 2,000倍 (5g/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕 コルト顆粒水和剤 4,000倍 (2.5g/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕	1. whicheverかを10a 当たり150～300ℓ 散布する。 2. 合成ビレスロイド剤（アーデント水和剤）は、抵抗性害虫出現回避のため同一ほ場における総使用回数は2回以内とする。 3. 合成ビレスロイド剤は、蚕・魚類に対する毒性が特に強いので注意する。 4. モスピラン顆粒水溶剤 [®] は、アザミウマ類にも登録がある。 5. ウララDFは、ミカンキイロアザミウマにも登録がある。 6. コルト顆粒水和剤はカスミカメムシ類にも登録がある。 7. コルト顆粒水和剤はミツバチの活動に影響を及ぼす恐れがあるので、ミツバチ放飼期間中は使用を避ける。	
9 月	アザミウマ類	6 30 5 5	アフーム乳剤 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕 グレイシア乳剤 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕 ディアナSC 2,500倍 (4ml/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕 ダブルシューターSE 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕	1. whicheverかを10a 当たり100～300ℓ 散布する。 2. ディアナSC、ダブルシューターSEは、同一系統とみなし連用は避け、総使用回数は2回以内とする。
9 月	ヨトウムシ テントウムシダマシ類	13	コテツフロアブル [®] 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/4回以内〕を10a 当たり100～300ℓ 散布する。	1. コテツフロアブル [®] はハダニ類、チャノホコリダニ、ミカンキイロアザミウマ、オオタバコガにも登録がある。 2. テントウムシダマシの多いほ場には、サイアノックス乳剤1,000倍 (10ml/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕を使用してもよい。
	オオタバコガ ハスモンヨトウ	28 UN 28	フェニックス顆粒水和剤 2,000倍 (5g/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕 プレオフロアブル 1,000倍 (10ml/10ℓ)〔前日まで/4回以内〕 プレバソフフロアブル5 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕	1. whicheverかを10a 当たり100～300ℓ 散布する。 2. プレオフロアブル、プレバソフフロアブル5は、ハモグリバエ類にも登録がある。
	カメムシ類	4A	スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 (5g/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕を10a 当たり100～300ℓ 散布する。	1. スタークル顆粒水和剤はアブラムシ類 (3,000倍)、アザミウマ類にも登録がある。
	ナメクジ類 カタツムリ類	-	スラゴ 1～5g/m ² (発生時/-)	1. ナメクジ類、カタツムリ類の発生あるいは加害を受けた場所又は株元に配置する。
9 8 月	うどんこ病	9 11 M7	フルピカフロアブル 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/4回以内〕 アミスター20フロアブル 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/4回以内〕 ベルコートフロアブル 2,000倍 (5ml/10ℓ)〔前日まで/3回以内〕	1. 排水対策をはかる。 2. 湿度の高いときに発生しやすい。 3. アミスター20フロアブルは、りんごに薬害があるので飛散しないように注意する。高温多湿下での散布により新展開葉に薬害が発生する場合がありますので注意する。また、浸透性を高める効果のある展着剤を使用すると薬害の恐れがあるので展着剤は加用しない。 4. フルピカフロアブルは、灰色かび病にも登録がある。ただし、おうとうに薬害が生じるので飛散しないように注意する。
9 月		3,U6	パンチョTF顆粒水和剤 2,000倍 (5g/10ℓ)〔前日まで/2回以内〕	

病害虫の発生時期



防除の考え方など

アブラムシ類	生育初期の被害が大きい。ウイルス病を媒介するため、予防防除に努める。発生初期に防除を徹底し、蔓延を防止する。
フキノメイガ	幼虫が葉柄や茎に食入すると、食入孔から虫糞が排出され、容易に確認できるが、食入後は有効な薬剤がない。発生の多いほ場では、アブラムシ対策の定期防除を行う。
ハダニ類	高温乾燥条件で大発生しやすい。チャノホコリダニは極めて微細で、通常のルーペでは確認が困難である。初期防除を徹底し、薬剤はローテーション散布を行う。
オオタバコガ	高温時期に発生が多い。幼虫の齢期が進むにつれて薬剤の効果が低下するので、若齢幼虫期に防除する。
カスミカメムシ類	成幼虫が葉や茎、果実を吸汁する。特にコアオカスミカメムシは柔らかい茎葉を加害するために生長点付近の葉が奇形となる。体長が小さいため発見は難しく被害症状の早期発見に努める。
うどんこ病	天候不順時に発生が多い。高温時に発生は目立たないが、この時期予防防除を徹底することにより、秋口の発生を抑制できる。
褐色腐敗病	高温時期に発生が多く、雨など水の跳ね上がりで感染する。収穫後に発生する場合もあり、クレームにもつながるため、しっかり果実を拭いて、乾いてから箱詰める。
灰色かび病	多湿時に発生が多い。落下した花卉等から発病する。

除草剤使用基準（露地栽培に限る）

	RAC	薬 剤 名	10a 当り薬量/散布量	使 用 時 期	使 用 方 法	使用回数	適用雑草	特 性
処土 理 剤	3	クレマト乳剤	200～400ml/100～150ℓ	定植前又は定植・マルチ前（雑草発生前）	全面土壌散布	1 回	一年生雑草	・ガス化しないのでマルチ栽培で使える
処茎 理 剤	10	バスタ液剤	300～500ml/100～150ℓ	雑草生育期定植前又は畦間処理 ただし収穫前日まで	雑草茎葉散布	3回以内	一年生雑草	・非選択性、スギナに効果高い

農薬の使用にあたっては、使用回数に加え、有効成分ごとの総使用回数も定められているので遵守する。

成 分 名	農 薬 名	使用回数	同一成分総使用回数	備 考
ジノテフラン	スタークル粒剤	1回	3回以内	定植時1回 定植後2回以内
	スタークル顆粒水溶剤	2回以内		
イミノクタジン	ダイアメリットDF	3回以内	3回以内	
	ベルコートフロアブル	3回以内		

展 着 剤

薬 剤 名	散布液 100ℓ 当り使用量(希釈倍数)	使用方法	注 意 事 項
サブマージ	33ml (3,000倍)	添加	本剤ラベルの記載事項を十分お読みください。
まくびか	33ml (3,000倍)		